

EANM 2025 Annual Congress

古賀 博人

北海道大学大学院医学研究院 画像診断学教室

2025年10月14日論文受領、最終受理2025年10月16日

2025年10月4日から8日まで、スペイン・バルセロナで開催された学会にて、「Unexpected [^{18}F] Fluciclovine Uptake in Pilocytic Astrocytoma : A Paediatric Case Report」というタイトルでポスター発表を行った。ヨーロッパでは脳腫瘍に対する核医学トレーサとして[^{18}F] FETや[^{18}F] FDOPAが主流であるが、日本では2024年より[^{18}F] Fluciclovine (FACBC)が保険適用となり、臨床応用が始まったばかりである。その新規性と臨床的意義から、本症例を報告するに至った。

また、聴講した「PET Response Assessment in Neuro-Oncology」のセッションも非常に興味深かった。グリオーマや

髄膜種、脳転移、悪性リンパ腫など多様な疾患に対するPETを用いた治療効果判定が議論され、とりわけRANO-PETの詳細な評価基準の解説や、髄膜種への応用例の紹介が印象に残った。PETによる反応評価が今後の神経腫瘍診療の標準となる可能性を感じた。

バルセロナは10月にもかかわらず日差しが強く、街全体に芸術的な活気があった。大学時代の旧友とも再会し、多くの刺激を受けた今回の学会は、非常に有意義な経験となった。

最後に、本発表および研究の機会を与えてくださり、ご指導・ご助言を賜りました先生方に心より感謝申し上げます。

